



2:12 私は振り返って、知恵と狂気と愚かさを見た。そもそも、王の跡を継ぐ者も、すでになされたことをするにすぎない。

2:13 私は見た。光が闇にまさっているように、知恵は愚かさにまさっていることを。

2:14 知恵のある者は頭に目があるが、愚かな者は闇の中を歩く。しかし私は、すべての者が同じ結末に行き着くことを知った。

2:15 私は心の中で言った。「私も愚かな者と同じ結末に行き着くのなら、なぜ、私は並外れて知恵ある者であったのか。」私は心の中で言った。「これもまた空しい」と。

2:16 事実、知恵のある者も愚かな者も、いつまでも記憶されることはない。日がたつと、一切は忘れられてしまう。なぜ、知恵のある者は愚かな者とともに死ぬのか。

2:17 私は生きていることを憎んだ。日の下で行われるわざは、私にとってはわざわいだからだ。確かに、すべては空しく、風を追うようなものだ。

2:18 私は、日の下で骨折った一切の労苦を憎んだ。跡を継ぐ者のために、それを残さなければならぬからである。

2:19 その者が知恵のある者か愚か者か、だれが知るだろうか。しかも、私が日の下で骨折り、知恵を使って行ったすべての労苦を、その者が支配するようになるのだ。これもまた空しい。

2:20 私は、日の下で骨折った一切の労苦を見回して、絶望した。

2:21 なぜなら、どんなに人が知恵と知識と才能をもって労苦しても、何の労苦もしなかった者に、自分が受けた分を譲らなければなら

ないからだ。これもまた空しく、大いに悲しきことだ。

2:22 実に、日の下で骨折った一切の労苦と思い煩いは、人にとって何なのだろう。

2:23 その一生の間、その営みには悲痛と苛立ちがあり、その心は夜も休まらない。これもまた空しい。

2:24 人には、食べたり飲んだりして、自分の労苦に満足を見出すことよりほかに、何も良いことがない。そのようにすることもまた、神の御手によることであると分かった。

2:25 実に、神から離れて、だれが食べ、だれが楽しむことができるだろうか。

2:26 なぜなら神は、ご自分が良しとする人には知恵と知識と喜びを与え、罪人には、神が良しとする人に渡すために、集めて蓄える仕事を与えられるからだ。これもまた空しく、風を追うようなものだ。

「愚かな者と同じ結末に行き着くのなら、それでは私の知恵は何の益になろうか。」というのは、神を認めない人々が陥りやすい詭弁です。どうせ死んでなくなるなら、楽しくおかしく生きればよいという人も少なからずいますが、それはサタンの罠です。人に生きる望みや、生きる意味や、命の尊さまで感じなくさせるものなのです。著者は、労苦に意味を見出せなくなり、「絶望した。」とまで言っています。神の存在を認めることがサタンの「絶望」から抜け出す一歩です。

誰もが学生時代は学び、またその後はと労苦して人生を過ごしますが、自分が学ぶ知恵と労苦に「絶望」しては、本当の喜びの人生を送れるはずがありません。これもまた神がいなければ…という前提に立っているための絶望です。すべての根源でありまた解決である神を、存在するのに存在しないという虚偽の上に作り上げた人生観は、当

然絶望に至るのです。

主である神様の存在をいつも思いながら生きましょう。そして決断し、前進しましょう。主の存在を知っていることに感謝しましょう。決して絶望することのない人生を、神様から与えられていることに感謝しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

